

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第3回会議 県北地区部会（概要）

1 日 時

令和4年8月1日（火） 13：30～16：00

2 場 所

能代科学技術高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 7名

○事務局（高校教育課） 7名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・再編の話になると、どうしても経済合理性で判断されることが多い。それはそれで大事ではあるが、主役は生徒なのであるから、将来の選択肢をたくさんつくってあげることができればと思っている。
- ・大館地区、能代山本地区にはそれぞれ3校の高校があるが、それぞれの学校には特徴がある。また、洋上風力発電などの新たなビジネスも創出されることから、それに向けた人材育成の要請がある可能性もある。できるだけ3校を維持していただきたい。
- ・人口減少を逆手に取り、「人口が減少しても優秀な人材を育成する」をコンセプトにして、そのようなモデルを目指す方向性が考えられるのではないか。全国の基準に合わせて、学校や学級の構成をしていくと、人数が少ないところは縮小していくしかない。みんなが優秀になるような環境をいかに作るかを考えてはどうか。
- ・生徒の選択肢を広げ、いろいろな分野で地元の産業に貢献できる人材を育成できるような、授業の工夫をしていただきたい。
- ・10年後、15年後を見ると県北地区の生徒数は半減するが、各地区に1校は高校が必要である。次期計画期間中の実情に合わせた適正規模の設定と、統合等再編整備の基準が必要であると感じる。
- ・進学を中心校の学級数について1学年6学級程度が望ましいとあるが、現在の状況から見ると実情に合わないと感じる。

- ・人口が減って産業も低迷すると、地元に残る子どもが少なくなっていく。学校の教育だけでなく、地元愛を持てるような教育をしていく必要がある。中学校や高校でも、地域との交流を行っているが、地元の魅力を伝えるような教育や施策をしていかないと、子どもが地元に残らない。
- ・定時制は様々な事情を抱えた生徒を受け入れている。そのような生徒たちに対しても学びの場を提供しているのが定時制である。